



# シナプス

～園長室だより～



令和3年3月



## ■卒園・進級おめでとうございます！

コロナ禍の令和2年度が終わりを迎えようとしています。「With コロナ」「新しい生活様式」そして「ポストコロナ社会」へと、パンデミックという言葉こそ知ってはいたものの、やはり災害時と同様に心のどこかに自分事ではない、映画の世界のようなイメージで考えていたことを改めて感じています。それでも私たちは今できることを行い、今日を迎えています。今、自分たちがやるべきことを自覚し、できることを行う。今回の感染対策のみならず、人が生きていく上で大切なことを学んだような気がします。幸い、当園においては、保護者の皆さまの多大なるご協力をいただき、政府からの要請時以外で休園することもなく、日々の保育を行うことができました。本当に厚く厚く御礼申し上げます。

年長児は幼稚園最終年度ということで、幼稚園生活の集大成としての行事もたくさんあった中、例年のような行事を行うことができませんでした。しかしながら、だからこそ行えた行事もありました。2月に行った「耐寒登山」もそのよい一例ですが、「ラグビー大会」に負けるとも劣らない、子どもたちのがんばりを見ることができました。最後尾にいた私を労り、手を引っ張ってくれたお友だちのやさしさ（思いやり）は忘れられませんし、そういう力が育っていることも大変嬉しく思います。

第3波もピークを越え、やや収束感はあるものの、依然として感染対策と経済の両立の難しい舵取りを迫られている政府ですが、政府のみならず、各都府県、市町村、企業、学校、家庭、そして一人ひとりが正にその舵取りを迫られている状況です。感染対策のために家にこもりがちになることも事実ですし、ソーシャルディスタンスという新しい概念もで

てきました。

しかしながら、こどもたちの成長・育ちを考えた時に、その生活スタイルにいささかの不安がよぎります。スクリーンを見ることによる脳への影響もしかりです。そういった研究結果のベストセラーも最近はでているのでご一読いただければと思いますが、このような時だからこそ、改めて子どもたちに必要な環境を見直し、考えるべきだと思います。

過日、園より配付いたしました総幼研ブックレット『「動きとことばリズム」がはぐくむ人間力 総合幼児教育研究会会長 秋田光彦 著』をご一読いただくとおわかり頂けると思いますが、こんな時だからこそよりコミュニケーションが大切になってきます。SNSやオンラインにより、人と人との接点が益々少なくなる時代ではありますが、言ってみるとそれもまた、間接的なコミュニケーションです。誤解されがちなのは、コミュニケーション能力は明るいか面白いとか話しがうまいという事ではありません。相手の言うことを理解したり、感情を推察しわかりやすく説明できる、言語化できる能力です。その力の根源の一つが、家庭での会話にあります。耳の痛い話ですが、ステイホームだからこそ、子どもたちの会話、コミュニケーションを大切にしていければと思います。一緒にいることだけが時間の共有ではありません。時間と共に体験（心身の感覚）も共有して頂ければと思います。

進学・進級後もまだもう少しばらくコロナ禍は続きそうですが、数年後に「あんなこともあったなあ～」と言えるような日がくることを願い、もう少し踏ん張りましょう！やがて来るであろう夜明けに向かって！！

園長 野口 大仁